

## 【青葉区】令和5年第3回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和5年9月6日(水) 午後3時40分から午後5時00分まで
場 所	青葉市役所4階会議室及びWEB会議室
出席者	【座 長】藤崎浩太郎議員 【議 員：6名】田中ゆき議員、山下正人議員、伊藤くみこ議員、 横山正人議員、行田朝仁議員、おさかべさやか議員
	【説明局員(青葉区)：21人】  中島区長、吉田副区長、青木福祉保健センター長、 壺井福祉保健センター担当部長、鈴木青葉土木事務所長、 瀬上青葉消防署長、ほか関係職員
議 題	(1)「令和4年度 個性ある区づくり推進費 決算」について (2)「令和5年度 個性ある区づくり推進費 執行状況」について (3)「令和6年度 青葉区予算編成の基本的な考え方(案)」について
発 言 の 旨	山下議員 4年度決算で、郷土の歴史を未来に生かす事業は事業費が10万だが、かなり多くの方が講座に毎回参加された印象がある。5年度の30周年事業のガイドブック制作にはこの辺の意見が反映されているのか、全く関係ないのか。
	帰山地域振興課長 郷土の歴史を未来に生かす事業では、地域のいろいろな歴史に関する講座やまち歩きなどの事業をやらせていただいている。30周年を機に、より青葉区に愛着を持っていただき、それを形として残すために、5年度は持ってまち歩きなどをしていただけるハンドブック作成を進めている。今年度は制作、デザイン委託まで実施し、来年度は印刷を行い、区民の皆さんに手に取っていただくよう進めている。
	山下議員 自分も感じているが、まち歩きをする人は、大山街道沿いや鶴見川沿いとか、いろいろところでまち歩きされていると思う。やはり郷土の歴史を知ることが、自分の住んでいる街に愛着を持つことの一步だと思うので、30周年の記念事業においても、また今後続くことにおいても、郷土歴史をしっかり押さえていくのは大事だと思う。 そこでよく出る意見が、川崎市と比べて横浜市は、郷土の歴史的な遺産の表示が全くないことだ。川崎市はかなりあるが、なぜ横浜市や青葉区はないのかと言われる。川崎の宮前区と青葉区は昔の都筑郡で、この辺一体の歴史的なものを持っており、川崎まで行くと、ここはどういういわれがあるという教育委員会の明示板があるので、それをつけてほしいという要望が結構来るが、青葉区ではつけられない理由があるのか。公道上でつけられないということを当局が言ったらしいが、川崎も公道上についている。少し調べてほしいがどうか。
	帰山地域振興課長 つけられない理由は定かではないので、確認させていただきたい。また、今あるものも、少し傷んで見づらかったりするところも多いので、そういうサインの在り方について、先生のご意見を踏まえて対応させていただきたい。

山下議員	<p>街を散策していても、ここは何?となってしまう。せっかく青葉区30周年で歴史のガイドブックをつくれれば、そこに行ってみようという方もいらっしゃると思う。そこにつながってくるので、ぜひよろしくお願ひしたい。</p> <p>それと関連して、青葉区の今の自治会加入率はどうなったか。かなり落ちてきているか。</p>
帰山地域振興課長	<p>市全体としては下降傾向だが、青葉区は令和3年度が68.9%で、令和4年度は69%で、0.1ポイント改善している状況である。</p>
山下議員	<p>18区の中で68.9%は、どういった位置づけか。</p>
帰山地域振興課長	<p>全市的に、令和4年度は68.8%なので、平均より少し上という状況である。</p>
山下議員	<p>区によっては、結構独自に自治会の推進政策を行っている。何か手を打っていかないと、特に新興住宅の青葉は、地域とのつながりを求めようという方が少ない。歴史散策も含めて地域に愛着を持てるように、そして我々が住んでいる街だから地域に関わろうというプラスの効果をもたらせるように、何か事業につながるよう少し工夫していただきたい。</p> <p>それと、要望として、4年ぶりの夏祭りで、各自治会がかなり疲弊している。高齢化と今年の夏の暑さで役員がへばっている、熱中症で倒れる、というのが相当出てくると思うので、自治会はもっと手を入れるか、やり方を考えていかないと、そのうち死人が出るのではないかと危惧している。恐らく区長もそういった意見を聞かれたと思うが、今後考えていかないと、自治会にかなり負担が来るのではないかと思う。</p>
横山議員	<p>決算について、執行率がほぼ100%に近いので、予定どおり執行できたという感想だと思うが、来年度に向けた予算編成方針や令和5年度の執行状況も踏まえ、青葉区として区づくり予算は充実していると考えているのか。それとも、もっと充実していればこういう事業もできるのにとというようなところなのか、感想を伺いたい。</p>
中島区長	<p>決算や進捗状況を見ていると、自主企画事業費については様々な工夫を各課が行い、区としていろいろと区民ニーズに応える形でやっている。絶えず見直しをしながらやっていければと思っており、充実していると言い切れるかは別だが、それなりにしっかり動いていると思っている。</p> <p>そして一番課題なのは施設管理費で、建物の老朽化や近年の光熱水費の高騰などの中で、コストをいかに抑えながら区民の皆様に施設サービスを提供するかを考えざるを得ないので、なかなか厳しいと思っている。全市的に、これから財政状況が悪くなることはあっても良くなることはないので、その中で区としてできる限りの努力はしながら、区民サービスの低下を招かないような努力をしていきたい。</p>
横山議員	<p>自主企画事業については、ほぼ充足している、要は自分たちが思い描いたものが実現できているという考えか。もっと充実していればこういう予算を組めたのにとというような思いはあるか。</p>
中島区長	<p>区民の皆様のニーズは、今私どもがやっているよりも、もっと様々なものがあると思っているので、全て対応するとすれば、やはりまだまだ足りないと思うが、その中でなるべく優先順位をつけてやっている。そういった中では、それなりにできているという評価である。</p>
横山議員	<p>区づくり予算の性格上、自主企画事業費から庁舎管理費への予算の流用は可能か。</p>

中島区長	<p>流用はできない取扱いとなっている。基本的な施設管理は、施設管理費の中で対応していくことになる。一方、区民ニーズに沿ったサービス向上に係る整備については、自主企画事業費の中で対応している。</p>
横山議員	<p>庁舎や区民利用施設が30年たつというのは節目に来ていて、長寿命化の問題もあり、これからしっかりとメンテナンスしていかないといけない。自主企画事業費は、創意工夫で圧縮したり、やり方を考えてみたりできるが、庁舎管理費は、物理的に直していかなければならない。</p> <p>財源確保は、市も区も同じだと思うので、区もその意識をしっかりと持っていってもらわないと困る。</p> <p>区づくり推進費を考える上で、ぜひ研究してもらいたいのは、企業版ふるさと納税で、企業からの寄附を受けて様々な事業を展開するという。例えば青葉区民まつりや青葉マラソンなど毎年一定の予算を組まなければいけない事業について、積極的に取り入れるべきではないかと思う。政策局のふるさと納税担当に確認したところ、区からの提案でできると聞いた。ここは職員の知恵の見せどころなので、ぜひ財源確保に企業版ふるさと納税を活用していただきたいが、いかがか。</p>
中島区長	<p>自主企画事業で、庁舎に係るものとしては、温水便座設置など区民からのニーズが高いものをプラスアルファでやっている。</p> <p>また、先生からお話が合った企業版のふるさと納税については、基本的には区局で確保したものは区局で使えると聞いているので、青葉区としても考えていかなければいけないと思う。例えばクラウドファンディング型のふるさと納税は、横浜市では消防音楽隊の制服購入で寄附を募ったかと思う。こういったものも含めて、今後考えていかないといけないと思う。</p>
横山議員	<p>ぜひ具体的にやれるところから取り組んでいただきたい。</p> <p>これも庁舎管理に当たると思うが、スポーツセンターがリニューアルして運用が大きく変わり、特に靴を履く履かないの問題が出てきている。運用が始まってから、様々な大会に呼ばれて行くが、やはり煩わしさが先行してしまう。あの運用方法は誰も望んでいないと思う。あまりにも厳格過ぎる。確かに体育館履きを履いてほしいというのは分かるが、体育館履きは、外と切り離れた靴である。にもかかわらず、カーペットの上は素足でなければ駄目だとか、ちょっとやり過ぎではないかと思うが、どうか。</p>
埴山地域振興課長	<p>先生にご指摘いただいた点については把握しており、指定管理者側と話をさせていただいている。今、先生から頂いたようなご意見は、我々も直接聞いており、指定管理者に投げかけると、裸足で競技する方々からは運用はいいという声もあると言われている。しかし、使いづらさについてはお声を頂いているので、指定管理者の本部も含めて話し合いをして見直しの方向性で検討いただいているが、回答待ちという状況のため、なるべく早く対応していきたい。また、区民まつりなど大きなイベントの際には、従来通り、養生などして下足のまま上がれる対応を今後もしていきたい。</p>
横山議員	<p>指定管理者が利用者の声を聞いて改善してくれればいいが、改善がないとなると、次回の指定管理の選考要件にこういうことも盛り込んでいかないといけないと思うので、ぜひ指定管理者側とよく話をしていただきたい。</p> <p>最後に、谷本公園について進捗を伺いたい。</p>
井波区政推進課担当課長	<p>前回ご説明したところから今年6月にもう一筆、土地の購入ができています。残りが約0.4ヘクタール、11筆となっている。</p>
横山議員	<p>前にも話をしているが、買えたところから供用できるところについては供用を開始してもらって、あるいは囲って、取得できた土地と未取得の土地を、市民から見て明らかに分かるようにすることも大切だと思う。横浜市はこれだけ努力しており、地権者の方の協力を求めて、引き続き買収を進めていくと。これだけ用地を取得できれば、具体的にこういう野球場を造っていきたくて積極的にアピールすることも必要だと思う。例えば絵を掲げて、こういうものを整備していきたいとか、将来予想図などを積極的に発信していくべきではないかと思うがどうか。</p>

井波区政推進課担当課長	<p>最近、土地の取得が一定程度進んでいる状況もあるので、先生のおっしゃるとおり、それをどう見える化していくかといったところは、残った方との関係性も配慮しながら、担当部局に今の話を伝えて、何ができるかということも踏まえながら、市民や区民の方へどうアピールできるかも検討していきたい。</p>
行田議員	<p>区づくり推進費の中では、ボランティアがとても大事であり、様々な事業は自主的に頑張ってもらってボランティアなしには成り立たない。事業の目的を達成するための手段として、例えば冊子の作成なども大事だが、あくまでもこれは手段であり、ボランティアはこの事業名を達成するために、目的を受け止めて自主的にボランティアをされているわけである。これができたというのは役所の都合だが、実際に心があって時間も使って来てくださっている方はどう思っているのか、アンケートを取ってもらえないかとお願ひしたい。そして今後のことを考えてやってもらいたい。</p> <p>もう一点、先ほど山下先生のお話にもあったが、夏祭りも含めて、コロナを経て高齢化の影響もあり、地域の力がかなりきつい状況にある。ボランティアも当然同じだ。これから先、街の活力を維持するにも、ボランティアの力を借りなければ、多くの事業が実現できない一方で、ボランティアからは、自分たちの声も聞いてほしいという声結構来る。具体例では、ボランティア活動で交通費がかかる時に役所からは敬老パスで来てくださいと指示がある。そうではなくて、敬老パスをお持ちでしたら使っただけないかと言うのが普通だと思う。もちろん予算もあるが、これ1つ取っても、やる気が出なくなる。一事が万事でそういう話があるので、現場の声を一回聞いてもらえないか。</p> <p>要は、事業をしっかりと継続していくために、もちろん採用できるものもできないものもあるかもしれないが、一つは事業名を実現するためのボランティアの意見、もう一つがボランティア活動する中でその人たちが今感じている意見を一回ちゃんと聞いてもらい、今後に生かしていくことが、事業を継続していく大きな力になると思うので、区長にお願ひしたい。</p>
中島区長	<p>区役所で行う事業は、様々な地域の担い手の方、ボランティア活動といった皆さんの力で成り立っているものが大変多い。そういう中では、今やっている事業や、今後新たに考えていく事業を含めて、地域のボランティアや担い手の皆さんからご意見や感想、改善内容をしっかり伺いながら、よりよいものにしていき、頂いたご意見を基に新たな事業を立ち上げていくことが必要だと思っている。ボランティア活動として区の事業に携わっていらっしゃる方のご意見をしっかり伺いながら進めていきたい。</p> <p>また、ボランティアで関わっていただいて当たり前という姿勢に区役所がなっているとすれば、それはとてもよくないことである。常にボランティアの皆さんには感謝の念を持ちながら、我々は仕事を進めていくべきだと思うので、その点についても十分注意してやっていきたい。</p>
行田議員	<p>おっしゃるとおり、ボランティアの皆さんに頑張ってもらって根本は、役所側の感謝の気持ちである。その上でボランティアの力を借りて前に進める人たちがまた感謝をする。その感謝が次への活力になっていくという繰り返しだと思う。そういう意味では、これを契機にアンケートをしっかりとやってほしい。その上で次に生かしていただくよう、お願ひしたい。</p>
田中議員	<p>令和4年度決算の25ページ、令和5年度執行状況の22ページに載っているおくやみハンドブックについて、今年度は随分と予算が少なく、配布部数見込みもチラシ3000部、冊子1000部となっているが、配布を希望者のみとしている考え方で、どのように窓口でお声がけをして配っているのか。</p>
大崎戸籍課長	<p>おくやみハンドブックは、従来、死亡届を出されてきた方全員に冊子版をお配りしていたが、ペーパーレスの観点から、おくやみハンドブックのウェブを案内するチラシを配るようにしている。窓口でハンドブックを希望された方にはハンドブックをお渡しするという運用を今年度から開始している。</p>

田中議員	<p>ペーパーレスの観点から、ウェブで見られるものに誘導するのはとても効率的で効果的だと思う一方、地域の高齢者の方からのご相談で、ご家族が亡くなったけれどどうしていいのかわからない、遺品整理で困っているという声を頂いたときに、おくやみハンドブックについて伝えると、知らなかったという話があった。先日、私も戸籍課に行き、おくやみハンドブックを1部でいいのでと伝えたとこ、今は冊数が足りないのお渡しができないという表現のことを言われた。ウェブに誘導するのは大切だが、高齢者がQRコードを読み込みたどり着けるのかを考えると、こういうハンドブックがあるが必要ですかぐらいのお声がけはしたほうがよいのではないかと考えているか。</p>
大崎戸籍課長	<p>希望者には渡しているが、窓口での案内が不適切だったと感じている。今後は、希望者にはもちろんお渡しするよう職員一同含め徹底していきたい。</p>
田中議員	<p>限られた予算だと思うが、冊子があるというご案内もして、希望者のご希望を伺える形にしていきたいと思う。 次に、区役所の1階で第3木曜にやっているあおばマルシェについて、前回は質問したが、出店希望があっても出店できていない状況があるようなので、実際のところは、店舗数が少し多いときは休んでもらうような状況になっているのか。</p>
渡辺区政推進課長	<p>あおばマルシェの出店に関しては、年度当初に出店の希望を募っているが、区役所のスペースが限られているため、出店が多い月に関しては、事業者様にいま一度お声をかけさせていただき、この月にずらせないかといった調整をさせていただいている。</p>
田中議員	<p>地産地消を進めていく上では、限られたスペースを延長するなどして出店者を増やしていかないと進んでいかないのではないと思う。あわせて、地産地消のハンドブックでも地産地消サポート店が今年3月ぐらいの時点で掲載されているが、地域の飲食店の方たちも、地産地消サポート店の存在及び登録される方法すらわからない方が多いので、今後、地産地消に関するハンドブックには、QRコード等で「地産地消サポート店に登録するには」の欄をつくっていただき、より一層推進していただきたい。</p>
渡辺区政推進課長	<p>区役所のスペースに関しても、いま一度見直し等を含めて検討させていただき、出店しやすい周知方法や環境を整えていきたい。</p>
田中議員	<p>新しくリニューアルしたスポーツセンターと公会堂の両方に言えるが、マイナーチェンジとはいえ、照明がLEDになって省エネでとてもいい面もあれば、新しくなった体育館を使ってみて、競技によってはLEDがとてもまぶしくてボールが追えなかったり、見えにくいという課題も出てきている。できればリニューアルを機に、利用を再開された方々に対してお声を聞けるようなアンケート等をして、よりよい施設にしていきたい。</p>
伊藤議員	<p>4年度決算の20ページ、5年度執行状況の19ページにある風水害に対するマイ・タイムラインの作成について、拡充で何らかの効果等が上がっているのかと思うが、実際どのようなことを子どもたちに行い、どのような効果が見えているか教えてほしい。</p>
富澤総務課長	<p>マイ・タイムライン作成講座は、令和4年度は10校のところを、今年度は拡充で実施している。子どもたちには、ハザードマップを使い、実際に自分の住んでいるところで、どのような災害が起こり得るのか、どんなことをやっているかなくてはいけないのか等について考えてもらっている。自分事として考えたり、家に帰ってからも親御さんやご家族で災害対応について話をするきっかけになったりしていると聞いている。</p>
伊藤議員	<p>昨年度実施が10校で、今年度が20校予定ということで、さらに全校的に広がっていく予定なのか。</p>
富澤総務課長	<p>今年度20校を想定しているが、現時点で申込みを頂いているのは16校になる。</p>

伊藤議員	<p>風水害については、最近、本当に大きな災害が起きて、今までと違って地震だけではなく様々な対策を取っていかなくてはならないと痛感している。土砂災害は、ある程度地域が限定されるが、風水害は何が起きるか分からず、今の気象は本当におかしな状況になっているので、子供たちを指導していくのはとてもいいことだと思う。併せて、拠点が地震だけということをつ分からずにおっしゃる方が非常に多い。風水害でも何でも拠点で全部やってもらえると思っている方も多いため、広報的なこともしっかり取り組んでいただきたい。</p>
おさかべ議員	<p>予算には関係ないが、最近聞こえてきている声で気になるのは、小学校のトイレの件で、うちの娘もそうだが、1年生で1回も和式トイレを使ったことがない。小学校のトイレはほとんどが和式トイレで、洋式トイレは限られたところに数個しかなく、子供たちが休み時間に行列になってしまうため、休み時間中にみんなのトイレが終わらないということが発生している。できる限り和式ではなく洋式にチェンジしてほしいという声が聞こえてきているが、区のほうで把握されているか。</p>
中島区長	<p>小学校については教育委員会が所管しているため、直接情報は入って来ないが、生活スタイルが子どもが子供の頃と変わり、今は洋式トイレが家でも一般的なため、和式トイレは使ったことがなく不安というお子さんも多くいると思う。そういったご要望やご意見が学校やお子さん、保護者からあることについて、教育委員会には伝えておきたい。</p>
おさかべ議員	<p>予算は市だと思われ、私からも教育委員会に話しておこうと思うが、ぜひそういう声が聞こえていることを区からも言ってもらえると助かる。 この夏、発達障害の子供が増えたことで、今まで特別教室だったところなどを利用して、新しくエアコンを設置して発達障害の子供の場所をつくったり、新たに冷房を設置してくれたと思うが、やはり時代に合わせた環境整備をこれからもお願いできればと思う。</p>
藤崎議員	<p>要望だが、PDFの資料データについて、冊子は全部同じ大きさだが、moreNOTEからPDFで落とすとちょっとずつサイズが違って使いづらいので、次回から可能であれば同じサイズに統一していただきたい。 決算は、令和4年度の29ページの3Rで、例えば(1)のリデュース推進事業の事業費53万3000円のお金が出ていくのはアとイだとすると、参加人数52人と23人で75名に53万円かけて、数字上は1人当たり7000円かけて集客しているように見える。 また、令和4年度の47ページの青葉環境エコ事業の(3)環境講演会は事業費25万円で、らんま先生というテレビにも出ている有名な方をお呼びしている割に、子供31人、大人22人で、令和6年度の基本的な予算の考え方で、アウトカムも非常に重要で市として取り組んでいるが、一方でいわゆる費用対効果をよく見ていただきたい。 今年度の事業は少し変わったので、それを踏まえたのかはわからないが、多くの人に周知していきたい事業では、なしかチャンネルがトータルで1万何千再生回数という数字で上がってきている。YouTubeの再生回数は、最後まで見たかどうかは登録システムから見られるはずなので、最後まで見ている人がどれだけいるかという課題はあるが、いずれにせよ、啓発事業の形で情報をより多く伝えたい。また、これから一括収集も始まるようになっている中で、ごみの問題や資源の問題が顕在化する可能性もある。環境問題に限らず、アウトプット数に対する費用対効果も今後しっかりと見て、事業の見直しを図っていただきたい。区長の考えがあれば教えてほしい。</p>
中島区長	<p>おっしゃるように、我々は事業を行った結果、どういう状態になっているかというアウトカムをしっかりと見据えて事業を進めていくようにしているが、費用対効果の視点によるアウトプットも、結果的にアウトカムにつながっていくと考えており、大事なところだと思っている。税金を使わせていただく以上はより多くの方に享受いただき、そこで行動変容などにつながるよう、これからも事業を精査し、改善しながらやっていきたい。</p>

藤崎議員

変革期なので、何をどう評価していくかはどうしても変わっていく中で、悩むことや軸が全く変わることがあると思うが、啓発事業は費用対効果がすごく測りづらい部分もあるし、リアル開催はかけたコストがその場でおしまいになってなかなか蓄積できない。そういう意味では、動画撮影をするのもいいし、せっかくやったのなら動画を残して見てもらえるようにしていくことも一つだ。啓発事業は本当に難しく、アウトカムも非常に測りづらいので、ストックにしていくのも一つの手段だと思うことを、要望としてお伝えする。